

平成30年度九州地区体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング
報告書

当番大学：第6グループ

(九州看護福祉大学・九州ルーテル学院大学・熊本大学・熊本県立大学・
熊本学園大学・熊本保健科学大学・崇城大学・中九州短期大学・東海大学)

事務局大学：東海大学

開催場所：東海大学熊本校舎

開催日時：平成30年10月8日

平成30年度 九州地区大学体育協議会
体育系学生リーダーズ・トレーニング実施報告

1. 目的 体育系サークルのリーダーを対象に、リーダーとしての知識を習得し、また責任、役割を身につけるとともに、九州地区大学体育の活性化等並びに大学間相互の連帯意識の育成及び体育系サークルリーダーとしての資質向上を図ることを目的とする。
2. 期 日 平成30年10月8日(月) ※台風25号接近のため縮小開催
3. 場 所 東海大学熊本校舎 ※台風25号接近のため会場変更
〒862-8652 熊本県熊本市東区渡鹿9丁目1番1号
Tel.096-386-2625
4. 日 程 別紙のとおり
5. メインテーマ One For All All For One ～気づき・理想・自信～
他者が気づくリーダーシップ(伝えたいこと)
6. 参加資格 次のいずれかに該当し、全日程に参加できる者
(1) 加盟大学の体育系サークルを統括する学生
(2) 体育サークルの指導・助言を担当する教職員
(3) 九州地区大学体育協議会総務委員会の体育教員
※途中参加の場合は、事前に申し出て許可を得ること
7. 参加者数 83名(学生73名、教職員13名)
8. 参加申込 所定の様式により、学生部長(相当職)名で申し込むこと。
9. 参加費 学 生 6,000円(食費・交流会費・保険料を含む)
教職員 6,000円(食費・交流会費・保険料を含む)
※途中参加もしくは途中帰宅したものは返金いたしません。
※台風25号接近のため参加費は返金いたしました。
10. 内 容 (1) 開会式及びオリエンテーション (30分)
(2) 講演、分科会及び講評等
* 基 調 講 演 (60分)
講師: 貞方 浩二 氏 (株式会社S.I.Pソリューション代表取締役)
* 分科会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ (170分)
* 九州大学議題 (30分)
* レクレーション・懇親会BBQ (120分)
11. その他 参加費で下記補償の保険を掛けるが、これ以外については参加者各自で対応すること。
保険内容 死亡・後遺障害 500万円
入院日額 5,000円
通院日額 3,000円

※従来、あしきた青少年の家を利用し、2泊3日での開催を予定していたが台風接近により次頁へ変更。

平成30年度九州地区大学体育協議会
 体育系学生リーダーズ・トレーニング 日程表

1日目	10月6日(土)	2日目	10月7日(日)	3日目	10月8日(月)	
		6:30	起床・クリーンタイム (宿泊室・研修室清掃)	6:30	起床・クリーンタイム (宿泊室・研修室清掃)	
		7:15	朝の集い	7:15	朝の集い	
		7:30	朝食	7:30	朝食	
		9:30	分科会Ⅱ	途中参加 受付	9:00	全体清掃完了
					9:30	九州大学議題「私達から見た九体協」及び閉会式
				11:30	解散	
		11:00	基調講演	12:00		
		12:00	昼食			
		13:00				
13:00	参加者集合・受付	13:00	分科会Ⅲ	当番大学 第6グループ 東海大学 熊本大学 崇城大学 熊本県立大学 熊本学園大学 熊本保健科学大学 九州ルーテル学院大学 九州看護福祉大学 中九州短期大学		
13:30	入所式・開会式					
14:00	オリエンテーション (部屋割り)					
14:30	分科会Ⅰ	14:30	レクレーション			
		15:00				
17:00	休憩	16:50				
18:00	夕食・入浴	17:00	懇親会BBQ			
		19:00	入浴			
19:40	明日の諸連絡等	20:00	自由時間			
20:00						
21:00						
22:00	自由時間	22:00				
22:30	消灯	22:30	消灯			

平成30年度九州地区大学体育協議会
 体育系学生リーダーズ・トレーニング 日程表

2018/10/4(木)東海大学九州教学課

1日目	10月8日(月)	場所
	移動	各自
8:30	参加者受付	東海大学熊本校舎2号館
9:00	開会式	東海大学熊本校舎2号館2401大教室
9:30	基調講演	
10:30	分科会Ⅰ	
11:20	休憩	
11:30	分科会Ⅱ	東海大学熊本校舎2号館2401大教室他
13:00	分科会Ⅲ	
13:30	情報交換会・懇親会	東海大学熊本校舎コミュニティーハウス
15:30	閉会式	
16:00	解散・移動	各自
当番大学(第6グループ)		
東海大学 熊本大学 崇城大学 熊本県立大学 熊本学園大学 熊本保健科学大学 九州ルーテル学院大学 九州看護福祉大学 中九州短期大学		

※天候により、当日場所や内容が変更することがありますのであらかじめご了承ください。



基調講演 セミナー講師紹介

貞方 浩二 氏

株式会社S.I.Pソリューション代表取締役
福岡大学非常勤講師
九州産業大学非常勤講師
福岡大学体操競技部男子監督

『アスリートから学んだ自己実現』

【体操競技指導実績】

- 全日本学生体操競技選手権団体5位
- U21強化選手輩出
- ナショナル強化選手輩出
- 全日本体操競技種目別選手権 優勝
- DTBポカール体操競技選手権 日本代表団体5位
- アジア体操競技選手権 日本代表団体3位
- チャレンジカップフランス・パリ国際大会5位

【体操競技実績】

- ・全国高校総体団体3位
- ・全日本ジュニア選手権大会団体2位、個人4位
- ・国民体育大会団体優勝
- ・ジュニアナショナル強化選手
- ・西日本学生体操競技選手権団体、個人優勝
- ・全日本学生体操競技選手権団体5位
- ・大学生強化指定選手

【所属学会】

- ・日本スポーツ運動学会
- ・日本体操競技・器械運動学会

【出身高校・大学】

- ・岡山県私立 関西高等学校
- ・福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科

基調講演

講師：貞方 浩二 氏

テーマ：アスリートから学んだ自己実現

<内容>

貞方浩二氏より「アスリートから学んだ自己実現」というテーマで講演いただいた。冒頭で福岡大学体操競技部の優秀な実績を持った選手（卒業生含む）を紹介していただいた。彼らは強い目的意識を持っている選手である。しかし、最初から強い目的意識を持っているわけではなかった。貞方氏は彼らが目的を持つ瞬間から自己実現に至るまでのプロセスから学んだことをご教授いただきました。

目的と目標

まず、目的意識を持つことが自己実現の一步である。目的を達成するには、小さな目標を段階的に設定し、1つ1つ達成していくことが大切。しかし、目標に向かっていると、必ず壁にぶつかる。その壁を乗り越える原動力が目的意識の強さである。また、目標設定する際に時間（期限）を決めることが大切。

目的：抽象的なものであり、欲求的なものである。（～したい、～になりたい）

目標：具体的に数値化できるものである。

（例1）

目的：東京ディズニーランドに行きたい！

計画を立てる → 日にち、交通手段、時間、予算 etc（目標を立てる）

（例2）

イソップ物語「3人のレンガ職人」

1人目のレンガ職人：目的を持っていない、なりゆき

2人目のレンガ職人：生活費を稼ぐのが目的

3人目のレンガ職人：歴史的な事業に関わって世の中に貢献することが目的

やらされている感のある1番目の職人や、仕方なく生活のために働いている2番目の職人より、3番目の職人の方が高いモチベーションを持ち、目的意識が明確である。

目的がしっかりしていて、その目的を果たすためにどのような貢献ができるのかを自分で考えるからこそ、より良い仕事をしようとその仕事に積極的に関わる姿勢が生まれる。

時間×単価＝報酬 (量)×(質)＝成果

分科会報告

テーマ「他者から気づくリーダーシップ」

<分科会Ⅰ>

【課題①】

- ・図形の伝達

【ねらい】

- ・「一方的な伝え方」と「対話的な伝え方」の違いを実験的に体験し、対人コミュニケーションの諸側面について学ぶ。
- ・図形を言葉により伝達することで、受け取った個人によって多様な解釈ができることを体験させる。
- ・情報を伝達・発信する際に、情報の表現の仕方により異なる解釈ができることを理解させる。
- ・誤った解釈を避けるためには、情報の表現の仕方を工夫する必要があることを認識させる。

【結果】

- ・「一方的な伝え方」と「対話的な伝え方」について、課題達成集計表を基に対話的な伝え方の正確さに気づいてもらった。
- ・参加者に情報を正しく伝達する難しさと、伝え方によって解釈は人それぞれであることに気づいてもらった。
- ・人に対して関心、興味を持ち対話することの大切さを実験的に学んだ。

【課題②】

- ・クロスロード

【ねらい】

- ・設問はすべてどちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような「ジレンマ」が多数あり、防災を一例にすることで、より「我が事」として考えなければならない。参加者はお互いにその答えを選んだ理由を聞くことで、多くの価値観や視点に出会うことができ、参加者は多くの人が受け入れることのできる結論引き出し、実行に移す時の対応策を事前に準備するための演習。

【結果】

- ・参加者は自分の所属で「リーダー」（組織を Lead する存在として）常に誰よりも本気で考え、一番行動し、目標に向かうことが大切であり、その過程が複雑な問題を結論付ける際に周囲を納得させる布石になることを知ってもらった。

<分科会Ⅱ>

【課題】

- ・おもしろ村

【ねらい】

- ・チームで問題を解決する過程で、自分、他者、およびチームの効果的なあり方に気づく。
- ・課題を達成するために、チーム内で適切な情報がどのように分かち合えるか、手順をどのように組織化できるか、メンバー相互の協力過程、自分や他者の行動特性に気づき、学ぶ。

【結果】

- ・課題達成のために、対話的な発話しやすい雰囲気作り、チーム内での役割分担、メンバー相互の前向き・積極的な協力、コミュニケーションの重要性に気づいてもらった。

<分科会Ⅲ>

【課題】

- ・他者から気づくリーダーシップ

【ねらい】

- ・自分が組織のリーダーに求める資質を考えてもらい、自分のリーダーの備わっている資質、不足している資質、必要だと思う資質について自己分析してもらおう。

【結果】

- ・実際に起こった事例を課題に意見交換が行われ、自分のリーダーシップについて深く振り返り、他者のリーダー特性・行動からリーダーシップの多様なあり方に気づいてもらった。